

○遠野馬の血統

昭和 46 (1971) 年に遠野市乗用馬生産組合が発足して以来、多くの種牡馬が産駒を残しました。その血を脈々と受け継ぐのは牝馬たち。そのルーツをたどれば、おのずと遠野馬産の歴史が見えてきます。



モモコ（写真左）とシバノ（2021年3月 中島トニアシュタールにて）

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.53

2021年4月1日

○歴史を語る淑女たち

茨城の中島トニアシュタールさんで2頭の牝馬に会いました。31歳のモモコと26歳のシバノ。彼女たちは遠野乗用馬生産の歴史を築いてきた種牡馬の直子です。モモコの父は1985年から遠野の第7代目種牡馬を務めたビュルボダルトアール。またシバノの父は1991年から務めた第8代目種牡馬のパスカルIIです。遠野の生産現場では世代交代が進み、現役の母馬の血統表で彼らの名前を見ることはあっても直子に会う機会はめったになくなりました。特にビュルボダルトアールの直子は今やモモコだけかもしれません。遠野ではビュルボダルトアールの

娘たちが母となって娘や孫にその血をつなぎましたが、モモコには後継となる牝馬がいません。けれども多くのライダーを育てた貢献馬だといいます。一方シバノには中島さんのところで生まれた娘がおり、競技生活を経て現在は遠野で母となっています。遠野馬の里にも長年普及馬として貢献してきたパスカルIIの直子で31歳になる牝馬メリーゴーランドが暮らします。高齢であっても今なお美しく品格を保つ彼女たちが元気であることが嬉しく、そして長く遠野馬産の礎を築いてきた遠野の母馬たちに敬意を感じずにいられません。



ビュルボダルトアール (牡・フランス)

1981年 フランス生まれ



パスカルII (牡・フランス)

1981年 フランス生まれ

メリーゴーランド



シバノ



モモコ



*種牡馬写真 「遠野市乗用馬市場40周年記念誌」より *取材協力 中島トニアシュタール

All Copyrights by Misao Takakusa